

6 河川流況と水質

6 - 1 河川流況

最上川水系の流水は、古くからかんがい用水として利用され、明治44年に酒田市遊摺部地内にポンプ場が設置され、600haの開田が行われて以降、大正から昭和にかけて農業水利事業は目覚ましい発展を遂げた。近年ではかんがい用水の他、上水道用水、工業用水、環境用水といった需要も出てきており、社会経済の発展に伴う流域の水利用の多様化、広域化は更なる水需要の増大へと繋がっている。

最上川における主な渇水は、流域全土にわたり深刻な被害をもたらした昭和48年をはじめ、以降昭和53年、昭和59年、昭和60年、平成6年と慢性的に発生している。このような渇水時には、農業用水使用者は番水、反復利用、用水補給等により対応し、都市部においては夏場のプールなど趣向性の強い水利用を停止したり、一時的な断水を実施するなどして対応している。

特に昭和48年の渇水は、高屋地点の流量が正常流量値を1ヶ月以上にわたって割り込むなど、深刻な事態となった。

最上川本川の主な代表地点における平均流況は、表6 - 1に示すとおりである。

表6 - 1 最上川各地点流況

観測所名	流域面積 (km ²)	豊水流量 (m ³ /s)	平水流量 (m ³ /s)	低水流量 (m ³ /s)	渇水流量 (m ³ /s)	観測期間
糠野目	359.1	13.5	8.7	7.2	2.6	S44～H9
小出	1,350.1	84.0	47.6	29.2	13.4	S26～H9
中郷	2,100.4	131.8	76.5	47.4	22.1	S31～H9
稲下	3,769.5	235.7	134.5	89.4	45.7	S27～H9
堀内	4,515.6	254.4	152.0	100.6	54.0	S32～H9
高屋	6,270.9	422.7	249.5	160.6	82.9	S33～H9
砂越	6,497.2	476.9	276.9	172.9	82.0	S40～H9

観測期間平均値

6 - 2 河川水質

(1) 水質の環境基準値

最上川水系の水質環境基準の類型指定状況は、表6 - 2、図6 - 1に示すとおりである。

表6 - 2 最上川水系水質環境基準類型指定状況

水 域 名		水質基準点	該当類型	達成期間	基 準 値 (BOD)
最 上 川	上 流	上新田	B	□	3.0
		糠野目	B	□	3.0
	中下流	奥面川 合流点	A	□	2.0
		小 出	A	□	2.0
		長 崎	A	□	2.0
		稻 下	A	□	2.0
		堀 内	A	□	2.0
		高 屋	A	□	2.0
砂 越	A	□	2.0		
須 川	寺 津	B	□	3.0	
寒河江川	上 流	高瀬橋	AA	イ	1.0
	下 流	西 根	A	□	2.0
最上小国川	長者原	A	イ	2.0	
鮭 川	上 流	八千代橋	AA	イ	1.0
		奥室川 合流点	AA	イ	1.0
	下 流	岩清水	A	イ	2.0
京 田 川	亀井橋	B	イ	3.0	

「山形県告示」より

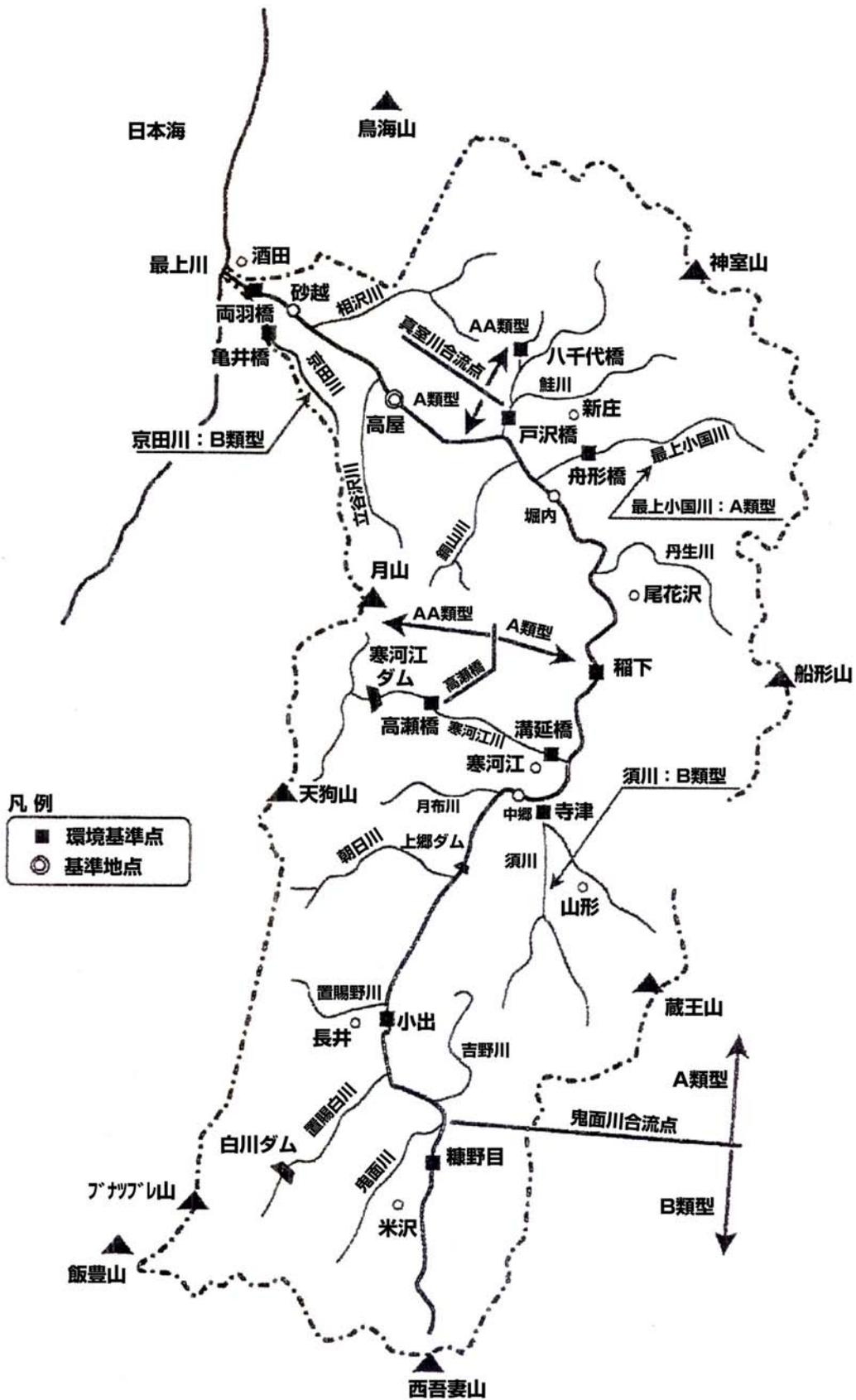
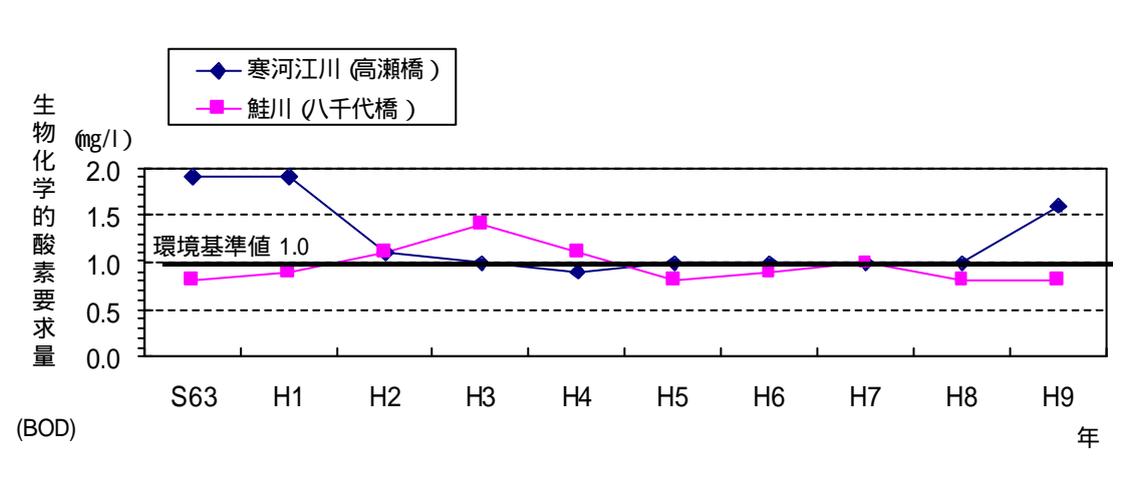
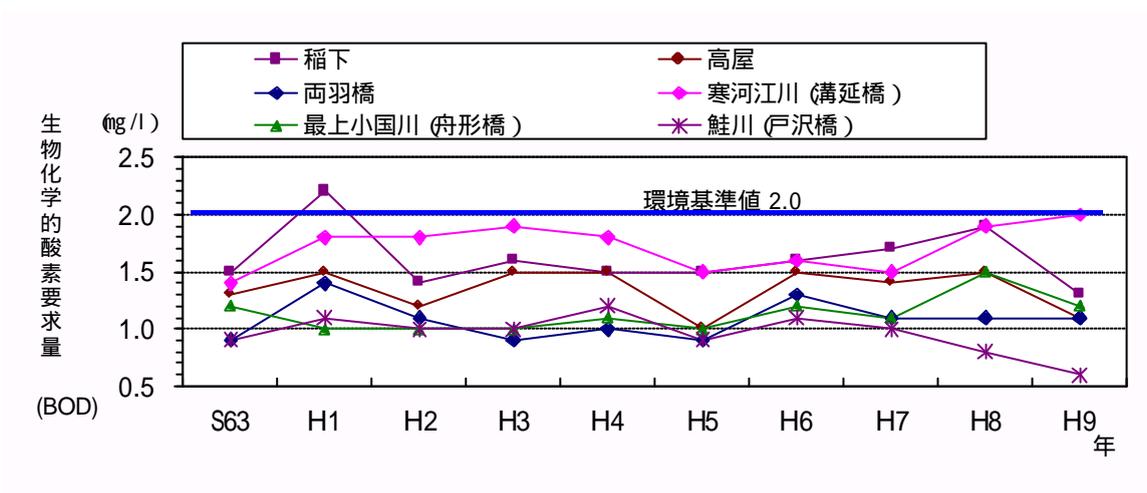
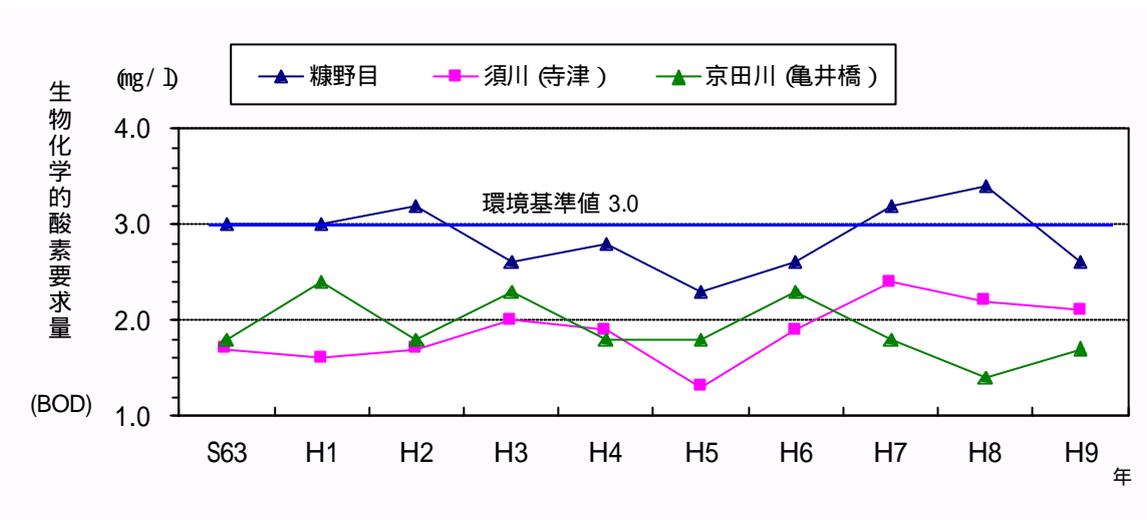


図6-1 最上川水系水質環境基準点及び類型指定区間

(2) 河川水質の推移



6 - 2 最上川水質の推移